

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 51人

② 算数 51人

5 留意事項

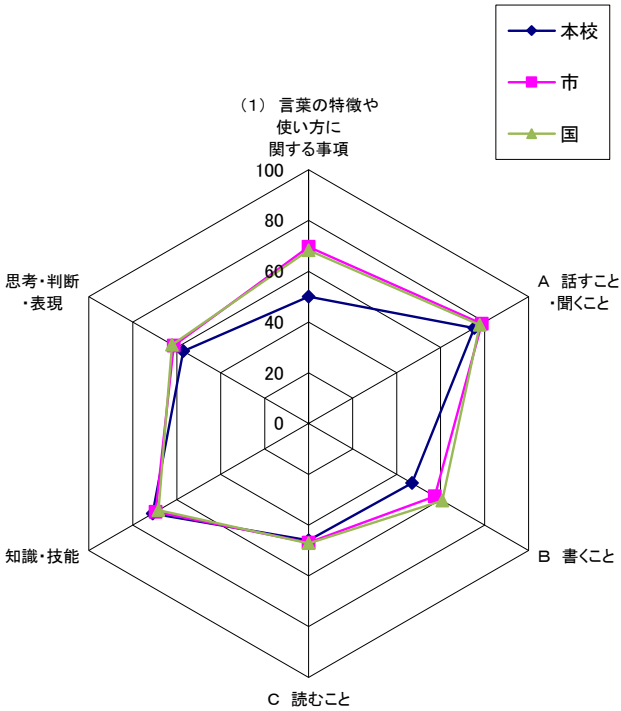
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	50.0	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	75.3	78.7	77.8
	B 書くこと	47.0	57.3	60.7
	C 読むこと	46.0	46.9	47.2
観点	知識・技能	71.0	69.6	68.3
	思考・判断・表現	57.0	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

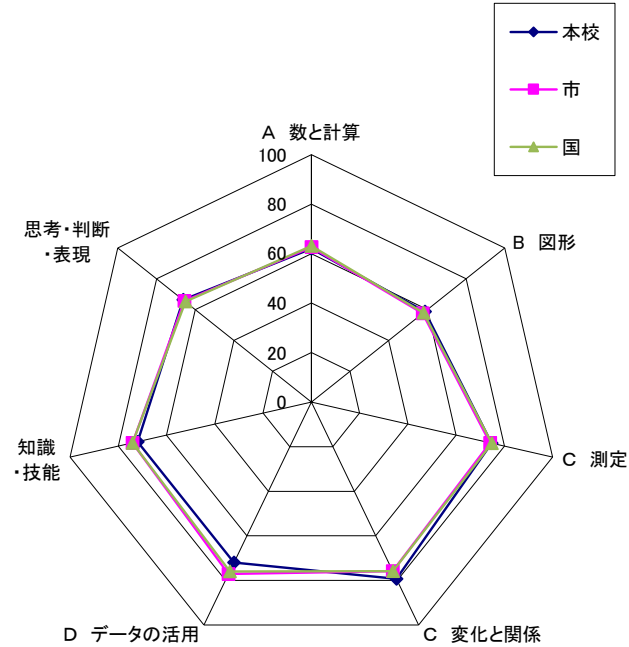
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○「文の中における修飾と被修飾との関係を捉える」問題では、平均正答率が66%で、県よりも17.5ポイント上回った。 ●「文の中における主語と述語との関係を捉える」問題では、平均正答率が54%で、県よりも17.9ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・述語に対する主語が見つけられていないので複文の中での主述を押さえていく。
A 話すこと・聞くこと	○「資料を用いた目的を理解する」問題では、平均正答率が80%で、県よりも6.6ポイント上回った。 ●「目的や意図に応じ、資料を使って話す」の問題では、平均正答率が72%で、県よりも8.9ポイント下回った。	・資料の内容が適切に読み取れていないので社会など他教科でも資料が出てきた際には、資料の読み取らせ方や目的を押さえていく。
B 書くこと	●「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」問題では、平均正答率が46%で、県よりも16ポイント下回った。 ●「目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えを伝えるように書き表し方を工夫する」の問題では、平均正答率が48%で、県よりも11.4ポイント下回った。	・字数を意識したまとめを書かせたり、意見文を書く際に、文字数を入れたりすることで字数に対する意識を高める。 ・視写を適宜取り入れることで書くことの抵抗を無くしていく。
C 読むこと	○「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」問題では、平均正答率が30%で、県よりも1.5ポイント上回った。	・これまで通り、物語文や説明文において丁寧な指導をしていく。

宇都宮市立国本中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	62.0	62.6	63.1
	B 図形	58.7	57.5	57.9
	C 測定	74.7	74.1	74.8
	C 変化と関係	79.3	75.8	75.9
	D データの活用	72.0	77.1	76.0
観点	知識・技能	72.0	74.1	74.1
	思考・判断・表現	66.3	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○「あまりのある除法の商と余りを基に、必要な数を求める」問題では、平均正答率が90.0%で県平均よりも7.0ポイント上回った。 ●「商が1より小さくなる等分除の場面を除法の式に表す」問題では、平均正答率48.0%で県平均を3.5ポイント下回った。	・問題場面を正確に理解できるようにするために、数直線や場面絵などで書き表し、それを手掛りに「除数」と「被除数」を押さえるようにする。
B 図形	○「複合図形の面積の比較」の問題では、平均正答率が74.0%で県平均を3.5ポイント上回った。 ○「複合図形の面積の求め方」の問題では、平均正答率50.0%で県平均よりも3.9ポイント上回った。	・これまで通りの授業を継続して実践する。
C 測定	○「条件に合う時刻を求める」問題では、平均正答率が90.0%で県平均を0.7ポイント上回った。	・これまで通りの授業を継続して実践する。
C 変化と関係	○「速さを求める式の意味について選択する」問題では、平均正答率が58.0%で県平均を4.4ポイント上回った。 ○「速さと道のりを基に時間を求める」問題では、平均正答率が94.0%で県平均を9.5ポイント上回った。	・これまで通りの授業を継続して実践する。
D データの活用	○「集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきか判断する」問題では、平均正答率が78.0%で県平均を5.6ポイント上回った。 ●「棒グラフの読み取り」の問題では、平均正答率が80.0%で県平均を9.8ポイント下回った。 ●「データの分類整理」の問題では、平均正答率が58.0%で県平均を10.4ポイント下回った。	・グラフを読み取る際に、縦軸の目盛りの大きさに着目できるように、算数科だけでなく他教科においてもグラフの読み取りが必要になった際に、目盛りの大きさを問う発問を繰り返し行って定着を図る。 ・二次元表に日常的に触れていないことが原因であると考えられるため、学級活動でのアンケート等で二次元表を活用しながら分類整理する活動に慣れ親しむようにする。

宇都宮市立国本中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問では、肯定回答率が100%でいじめゼロを掲げて取り組む学校の体制が児童にも浸透していることが分かる。
○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか」の質問では、肯定回答率が92.1%で全国より18.7ポイント上回った。このことから友達と協力し合ってより良い学校生活を送ろうとする態度が身に付いていることが分かる。
○「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問では、肯定回答率が100%で、学習において国語の力が基盤になると児童が感じていることが分かる。
○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問では、肯定回答率が62.7%で、全国より10.3ポイント上回った。学校生活以外にも広い視野で地域や社会のことを考える態度が育ってきていることが分かる。

- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）の質問では、10分から30分読書する児童が31.4%と一番多く、それ以上は17.6%と少なかった。全国では30分以上読書をしている割合が37.4%で19.8ポイント下回った。読書活動の充実に力を入れているが、さらに読書活動を充実させ、読書の時間が増えるよう、図書館活用を場を設定していく。
- 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の質問では、肯定回答率が49%で全国を14.5ポイント下回った。コロナウイルス感染症対策をとりつつ、児童が話し合ったり発表し合ったりする活動を工夫していく。
- 「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、ほかの友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」の質問では、肯定回答率が21.5%で全国より17.5ポイント下回った。今年度から一人一台端末が整備され、ICT機器を授業で活用する機会が増えてきた。さらに、活用の仕方を工夫していきたい。
- 「普段、（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）を読みますか」の質問では、2時間以上ゲームする児童が68.6%で全国より19.2ポイント上回った。ゲームやスマートフォンの適正な使い方についての約束を確認するよう、家庭に協力を依頼しながら連携を図っていきたい。

宇都宮市立〇〇〇小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容